

法政大学学術機関リポジトリ  
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

## 長崎唐蘭船交易覚書（解題補訂）

出版者	法政大学史学会
雑誌名	法政史学
巻	25
ページ	123-123
発行年	1973-02-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/10230">http://hdl.handle.net/10114/10230</a>

# 長崎唐蘭船交易覚書（解題補訂）

本誌の付録史料として分載されてきた「長崎唐蘭船交易覚書」は第二四号掲載分をもって終った。史料の解説と原稿作成・校正には、各号編集後記にあるごとく、最初は大学院修士課程の諸氏が当たられ、のちには法政大学近世文書講読会の諸氏が引き継がれたようである。分担された諸氏の労を多としたい。

さて、第一回分掲載に際し、印刷も間近に迫ったところと記憶するが、本史料が本学図書館の購入に帰するにいたった直接の関係者として、会長岩生成一先生から解題の執筆を命じられた。そこで、急ぎ準備のうえ提出したのが、第一回（第二十号）冒頭に掲載した解題の無文である。完結に際し改めて通覧のうえ、内容を関係諸史料と比較してみると、補訂を要する事項若干を見出した。よって責任を果たすべく、本誌の余白を借りた次第である。

補訂を要することは、主として収録年代に関するものである。

第二冊に収録されている最後の一通を、

長崎唐蘭船交易覚書（解題補訂）

旧稿では「元禄十一年十一月」の文書としておいたが、これを「文化三年十一月」の文書と訂正とする。理由は、同文書にみえる人名、本庄貞太郎以下吉村源助までの十六名は、文化初年頃と考証の結果推定できる『長崎諸役人并寺社山伏』なる分限帳にみえる「唐人番」達であり、したがって、同文書に「寅」とあるのは文化三丙寅年に当たるとみなされるからである。

第三冊について、旧稿では「元禄九年十二月」の史料としておいたが、これを「天保十一年十二月」の史料と訂正する。その理由は、同史料群にみえる「会所調役」「諸立合……」などの役名は元禄期にはまだ設置されておらず、五八ページの阿蘭陀大通詞中山作三郎・岩瀬弥十郎・楢林鉄之助、同小通詞石橋助十郎・末永七十郎、および六五ページの小通詞西記志十郎は、いずれも天保十三年の『阿蘭陀通詞目付同大小通詞明細分限帳』にそれぞれの該当職階でその名がみえている、などの点においてここにみえる「子」年が天保十一庚子年に

該当するものと認められるからである。

第四冊について、旧稿では「文化三年十一月」の史料としておいたが、九月十月分も見受けられるので「文化三年九月十一月」と訂正する。

以上を整理して、本史料の収録年限を表すれば次の通りである。

第一冊 元禄三年二月～元禄六年十月

第二冊 元禄八年一月～元禄十年六月

但し、文化三年十一月の文書

一通を附す

第三冊 天保十一年十二月

第四冊 文化三年九月～同年十一月

関連して、二ページの一七行めの「元禄九年」は「天保十一年」に改め、末行の「前三冊と年代の開きがあつて」の文言は削除する。

なお、史料の各文書については、まま誤植等がのこっているようである。研究者間に本史料が利用されている様子を耳にするにつけ、前記分担者において正誤表でも準備して下されば幸いであると希望している次第である。

（片桐 一男）